

## 「豊岡就活応援ブック2018」発行と 企業情報サイト「ジョブナビ豊岡」リニューアル

ふるさと・豊岡にUターンする若者を増やすため、昨年12月、就活情報誌「豊岡就活応援ブック2018」を発行しました。

この就活ブックでは、市内59社の企業情報を掲載した他、来年大学などを卒業する学生の就活スケジュールや就活イベント情報を紹介しています。また「私のLOCAL STORY」と題した、豊岡で働く人々にスポットを当てた特集ページもあります。発行部数は2千部。市内の高校を卒業し3年を経過した大学生や、大学などに配布しました。

また、1月5日、本市が運営する求人・企業情報サイトを



▲豊岡就活応援ブック



▲新しくなった求人・企業情報検索サイト「ジョブナビ豊岡」

「ジョブナビ豊岡」をリニューアル。サイトのトップページには、求人の検索方法を「新卒者」「第二新卒者」「一般」等の五つのカテゴリーに分けるなど、自分に合った仕事をより検索しやすくなりました。本市は、U・Iターンを考えている若者を応援します。

## 冒険館としての将来像検討

### 市長に「植村直己冒険館機能強化基本構想」提出

開館から22年を迎えた植村直己冒険館では、時代の変化に合わせ、新たな役割を担い生まれ変わるため、昨年3月から植村直己冒険館機能強化基本構想策定委員会を組織して、当館のあり方を検討してきました。

12月16日、当委員会座長の平田オリザさんから中貝市長に、今後の方向性をまとめた機能強化基本構想が手渡され

ました。今後、市では内容を精査し、行政としての基本構想にまとめます。



▲中貝市長に基本構想を手渡す座長の平田オリザさん(左)

## 世代間の情報格差を解消

### 高齢者向け「スマートフォン教室」開催

12月19日と22日、市役所本庁舎で、高齢者を対象としたスマートフォン教室を開催し、44人の市民が、基本的な操作を学びました。

本市では、情報化社会の中での世代間の情報格差を解消するため、昨年に引き続き、(株)NTTドコモ、KDDI(株)と連携して開催しました。参加者は、実際にスマートフォンを使用して、電話やメールの操作をした他、イン



▲スマートフォンを操作する参加者

ターネットに接続し災害対策アプリ等を体験しました。

## 主な市政の動き

### 12月

- 16日・歩いて暮らすまちづくり審議会」答申
- 植村直己冒険館機能強化基本構想策定委員会が同構想を提出
- 豊岡市環境審議会
- 19日・高齢者向け「スマートフォン教室」(22日)
- 21日・平成28年豊岡市政10大ニュース発表
- 22日・豊岡就活応援ブック2018」発行
- 28日・糸魚川市駅北大火義援金募集
- 市役所仕事納め式
- 1月
- 3日・コウノトリ文化館新春特別開館(～4日)
- 4日・市役所仕事始め式
- 豊岡市賀詞交換会
- 5日・求人・企業情報サイト「ジョブナビ豊岡」リニューアル
- 6日・城崎消防団出初式(8日・豊岡・竹野・出石、9日・但東)
- 8日・豊岡市成人式
- 11日・豊岡ノーマイカーデーラウンド・ゴルフ交流会

# 平成29年度城崎国際アートセンター アーティスト・イン・レジデンスプログラム決定!



◎西山円苑

アーティストが滞在し、ダンスや演劇の創作活動などを行う「アーティスト・イン・レジデンス」。平成29年度に、城崎国際アートセンターで、創作活動を行う国内外のアーティストが決定しました。

応募は、世界各地から43件。選考の結果、20組(演劇7組、ダンス8組、複数分野の共同プロジェクト3組、その他2組)が選ばれました。  
アーティストの滞在期間中には、稽古場の公開や制作途中の作品試演会、また、アーティストとのトークショーなど、市民との「交流プログラム」を実施します。さらに、一流アーティストが、市内の小・中学校に向き、演劇やダンスのワークショップなどで、子どもたちとも交流します。



▲白井剛×アルディティ弦楽四重奏団 2006~08年共演の舞台より



▲やなぎみわステージトレーラープロジェクト 『日輪の翼』(2016) © Omote Nobutada



▲テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ イタリア・マントヴァでの公演より(2016)

## 「注目のアーティスト」

イタリアの美術作家ダリオ・モレッティと作曲家野村誠・やぶくみこによる「テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ」、劇団世田谷シルクとスウェーデンの児童演劇専門の劇団Teater Sesamによるコラボレーションは、共に国際共同製作で、親子で楽しめる作品を創作するプロジェクトです。将来を担っていく子どもたちに、豊岡の地で良質な作品を届けます。

劇作家・演出家の松井周と芥川賞作家の村田沙耶香による、小説なのか演劇なのか予測不可能な新作クリエーションや、全国各地での移動舞台車を使った上演で話題となった美術作家やなぎみわによるステージトレーラープロジェクト「日輪の翼」、現代音楽の作曲家ヤニス・クセナサー・白井剛とアルディティ弦楽四重奏団がコラボレーションする作品も見逃せません。

詳細は、市広報紙等で随時お知らせします。

## 中貝市長の徒然日記 ③

### アンサンブル・ヒーロー

新年、各地で消防団の出初式が行われました。時に雨や雪の中で行進をし、放水をする。消防団最大の見せ場です。

しかし、団の活動は、燃え盛る炎の中に果敢に突入して人を助け出す、というような英雄的場面はほとんどありません。火事に向かって放水するということもそんなに多くはありません。彼らは、ただ黙々と鐘を鳴らして消防自動車を走らせ、火の用心を訴え、日常的に消火栓の点検をし、台風が近づく地域警戒に当たります。消した火事の数より、人知れず防いだ火事の数の方が多かもしれません。

アンサンブル・ヒーローという言葉があるのだそうです。昨年ニューヨークで出会った分子生物学者・福岡伸一さんの「生物と無生物のあいだ」という本の中で紹介されています。「unsung hero」。うたわれることのない英雄。縁の下の力持ち。消防団の方々は、まさにアンサンブル・ヒーロー

なのだと思えます。

朝、ごみ袋を所定の場所に置いておくと、ごみは車に積み込まれ、やがてごみ処理場に到着し、焼却炉で燃やされ、熱を利用した発電に役立ちながら処理されていく。

トイレに入った後、レバーを引くと汚物は一瞬のうちに目の前から消えてなくなり、下水管を伝って処理場に運ばれ、処理されて浄化された水が放流されていく。その過程が人々の目に触れることはほとんどありません。

夜中に大雪になっても、真夜中のうちに出勤した除雪隊や建設業の方々によって道路があけられ、交通が確保される。そこにどんな努力があるのか、誰も見ようともしないし、讚えようともしない。

それでも、彼らは黙々と仕事を続け、禍を未然に防ぎ、私たちの何の変哲もない、しかし災害等で失って初めてその大切さを知る日常を支えています。

私もまた、職員とともにアンサンブル・ヒーローの役目を果たしていきたいと思えます。